



測りにくい力

中間考査終了。

生徒の顔も少し晴れやかにみえます。

ただ、気が緩むと事故が起きやすくなるので、そのあたりにもご留意を。

考査の適切な評価と次に向けての意欲付けをお願いします。

さて、中間考査等で測ることができるのは、認知能力といわれる測りやすい力。

I Q等と同様で点数（数値化）で測定することが比較的容易。

「彼は頭がいいよね」の「いい」とは、認知能力の成績によることが多い。

ですが、ノーベル経済学賞（2000年）を受賞されたヘックマン教授によると、

- ・他者とコミュニケーションをとり協調や協働をするための力
- ・自分自身で自らを勇気付けて挑戦や努力をするための力
- ・自分の感情をコントロールして我慢や持続をするための力

などについて、幼稚園就学前に獲得プログラムを実施したところ、プログラムを受けた子供の方が、将来の学歴や年収が高く、犯罪率も低いことがわかったとあり、測りにくい力、つまり非認知能力の獲得が重要であると言及しています。

確かに、「頭がいいよね」といわれていたけど、「あれっ？」という人生の人も・・・

また、「成績は今一つ」だったのに、「おー！」という成功を収めている人も。

その答えは非認知能力の獲得にあるようです。

非認知能力という最近出てきた新しい考え方に思えますが、日本においても、

- ・「生きる力」文部省（当時）1996年
- ・「人間力」内閣府 2003年
- ・「就職基礎能力」厚生労働省 2004年
- ・「社会人基礎力」経済産業省 2006年

等の用語が使われていて、決して新しい考え方ではありません。

新学習指導要領にも「学びに向かう力、人間性」が追加されました。

測りにくい力ではありますが、道徳や特別活動を軸に全教科で育てていきたいものです。

さ、週末には市民体育大会が行われ、夏の全国まで続く戦いが始まります。

「協調」「挑戦」「感情のコントロール」が勝敗を左右すると思います。

測りにくい力が高まるよう、よい準備をお願いします。